

## 特別寄稿

今も活きる滋賀県立  
藤樹高等女学校の足跡

高橋 志郎

昨年（平成二十七年）十月に高島掃除に学ぶ会で市立高島中学校にお世話になった折に、自分自身の出身校でもある当中学校の前庭にある「ヒマラヤ杉」と玄関に掲げている「修身堂」の書額を見つけ、この二つが昭和十一年にこの地で開校された「滋賀県立藤樹高等女学校」の足跡であることを再確認しました。

ところが、昭和二十四年に藤樹高等女学校の校舎が高島高等学校に移行されて六十七年も経過している現在、二つの足跡がいったい何なのかも十分伝承されていないことに気がきましたので、当会報の紙面をお借りして、再確認の場といたします。



## ①修身堂の書額

「修身堂」というのは、江戸時代高島市勝野にあった大溝藩の藩校の名前で、藤樹高等女学校の講堂を「修身堂」としていたようです。



（当時の卒業アルバムにも掲載）また、この書は京都帝国大学名誉教授高瀬武次郎氏によるものです。氏の書は一昨年訪れた

日野小学校に掲げられていた「致良知」の大きな書額が私にとりましては初見です。後から調べますと、京都市北区にあった旧高瀬宅の中江藤樹の顕彰碑は削り貫いた石のスペースに藤樹先生の像が安置され、その像は外側に向かって道行く人々を見守っていたようです。今は良知館と藤樹書院の間に移設され、その他の石碑は陽明園の北西角にあります。

また、藤樹神社にある神社創立十周年記念碑の撰文は高瀬氏によるもので、藤樹神社の創立に至る機縁と、その経過について、じつに簡潔明瞭に書かれています。

昭和十三年五月に女学校の落成式が挙行されており、氏が揮毫されたのはそれに合わせて前年の十二月でありました。高瀬氏は当時藤樹頌徳会の顧問であった関係であろうと推測します。

高瀬氏の書は藤樹記念館に多く収蔵されています。

高瀬氏は昭和初期を代表する陽明学者で、蔵書は九州大学に寄贈されています。



藤樹高等女学校 落成式 学校長式辞

②初代校長松本義懿氏  
高島藤樹会顧問の松本孝太郎氏の父上であります。

氏は石川県生まれで、石川県師範学校卒業後、広島高等師範学校教育科を卒業。その後東京市立浅草実務女学校に奉職と同時に、東洋大学に籍をおき学びを続けられました。

昭和十一年に滋賀県立藤樹実科高等女学校が新設される際に、その校長に迎えられました（三十九歳）。当時旧高島町では旧制今津中学校が旧今津町に設置されたため、旧高島郡南部に何とか県立学校を設置したいという動きがあったようで、当時の滋賀県議会議員の上原茂次氏と前田節氏は県議会で女子教育の重要性を説き、県立女学校の実現に尽力されたようです。

開校に際し、両氏および教育関係者、そして初代校長のご尽力で全国各地から新進気鋭の教師を招聘され、校歌の作詞は与謝野晶子氏が手

がけるなど、かなり充実した高等女学校であり、全国の公立学校で個人の名前を冠した唯一の文字通り藤樹教育を実践される場になりました。

前列右：高瀬先生  
前列左：松本先生

## ③新制高島中学校改築

前述のように、旧制藤樹高等女学校は昭和二十四年には前年に統合された県立高島高等学校の校舎に生徒が移ったあとは、旧高島町立高島中学校の校舎として昭和四十五年まで使用されてきました。当時の先生のお話を聴きますと、「修身堂」の書額は家庭科室に掲げてあったようです。ヒマラヤ杉も大切にされていたようです。

昭和四十六年に改築された際にも、「ヒマラヤ杉」はそのままの場所に残され、この地に藤樹高等女学校が新設された歴史をすべて知っている大樹を手本とするという言葉が、当時の校長大江利雄氏が町報にかしまに竣工の挨拶として記されています。また「修身堂」の書額は改築の際に再額装され、玄関に掲げることになったと推測します。

約一ヶ月をかけて私の小学校の恩師でありました松本孝太郎氏のご助